

UR団地の家賃値上げ中止と高家賃引き下げを求める意見書提出の陳情審査

自民(2) 継続

URが継続しなければ、居住の安定も望めない。税と社会保障の一体改革をすすめている。消費税が上がるから、家賃を何とかしてほしいというのは理解できない。家賃の問題は重要であるが、今後の推移を見守る。

公明(2) 継続

会派でも今まで通り意見書をあげるべきだとの意見もあり、一方でURには負債があり、分割民営化が再燃しかねないとの意見もあった。今までも区議会では意見書あげてきたが、結局、家賃の上げが行われたこともある。家賃改定のルールを変えてゆかなければ厳しいのではないか。URに対し、赤羽台でのEV設置や災害対策、高齢者の地域開放型集会室の設置など、値上げした分の充実を求める。願意は十分、理解しているが継続。

共産(2) 採択

年金削減、税、保険料、医療費などの値上げ、今後の消費税の値上げという中で、更に家賃の値上げは大変。厳しい状況である。UR団地では高齢化もすすんでおり、家賃を上げられたら住めなくなってしまう、行き場がなくなるとの切実な声を聞いている。UR団地は住宅セーフティネットの位置づけもされており、配慮されなくてはならない。家賃は月の支出で固定されたものであり、それが上がるのは大きな負担だ。値上げはやめるべき。採択

民主(1) 採択

議会ではこれまでも意見書をあげてきた。今まで通り、採択。

新社会(1) 採択

都市部の家賃は非常に高い。収入や年金が下がり、今は違法貸しルームや脱法ハウスなどが出てきている。これ以上、家賃が上がったら、どうしたらいいかわからないとの声だ。王5でも空き夜が目立ってきた。住む人が安心して暮らせる家賃にしなければならない。税、保険料の負担が増える中、これ以上の家賃負担が上がるのは認められない。採択

採決結果 採択4 継続4 いずれも過半数(5)に至らず、結果は継続審査